

平成22年 お盆号

富士山を世界文化遺産にしようとの運動が展開されて、今年で五年になりました。先日、来年の登録に向けて、最終的な登録資産の選択が行われました。当初、園指定の天然記念物のため、自然遺産としての認識の強かった忍野八海は、構成資産としてはランク目に位置していて、最終的には外されそうでしたが、その後、東園寺に残されている、八海に関する数々の古文書類の発見により、自然遺産ではなく、宗教遺産であるとの確認がなされて、Aランク評価となり、登録構成資産の中に残りました。

しかし、このことは、手放しで喜んではいられません。世界文化遺産として後世に残していかなければならないという、義務を課せられたことになりました。役場、観光協会、地域住民一体となって、保存計画を話し合わなければならぬと思います。特に、忍草地区の皆さんの認識や協力が不可欠だと思われまます。子孫のためにお宝を残しましょう。



八海・新名庄川清掃活動  
後半の予定

八月十八日(水)  
九月十八日(土)  
十月 八日 (金)  
十一月八日(月)  
十二月八日(木)

時間

午前10時～12時半

清掃活動を経て今年で四年目になりますが、お寺の役員さん以外の方の参加は非常に少ないです。多くの方々のご理解をお願いします。参加できそうな時は、ご協力お願いします。

編集・発行

天台宗 東園寺

電話：84-4114

FAX：84-4104

## 比叡山団参無事円成

恒例の新築・先祖供養のための比叡山団参が、厳粛の中にも、和やかな雰囲気で行うことが出来ました。今年も上野原市の法性寺の檀家さんが六名参加しました。毎年参加して下さる方もいて、楽しく交流を深める事ができました。

来年のことを云うと、鬼に笑われるそうですが、次回は平成二十三年十月十八日から二十日を予定しています。また多くの皆様のご参加をお願いします。



## 4月24日 子育て感謝大祭とオカリナ演奏会

バザーの売り上げが41,490円でした。ご協力有り難うございます。

4月24日、東園寺厄除け・子育て感謝のお祭りが、満開の桜の元で盛大に行われました。恒例のオカリナ演奏会では、およそ150名の方々が、「きょうともに」さんのお話とオカリナの演奏を楽しみました。終わりに近づくと、突然の雨に見舞われましたが、それも楽しい思い出になったことでしょう。

バザーも盛況で、今年は売り上げが41,490円でした。昨年同様忍野図書館に寄贈しました。多くの皆さんの善意、有り難うございます。

## 檀徒の皆様へお願い

仏参金(護寺会費)はお彼岸やお盆などのお参りの時にお寺によって納めるようにしましょう

昨今共稼ぎのご家庭も多く、集めて貯る細代さんも、朝・昼・夜と同じ家に何度か又、何日も足を運んでいるのが現状です。お彼岸やお盆などのお参りの時、お寺によって納めるようにして下さい。納めるときはご仏前やご霊前の袋に入れて、氏名の他に住所または忍草何組と書き入れて下さい。

昨年、本堂の横に札所を新築しました。お盆の16日とお彼岸の中日には、朝から夕方まで細代さんが待機していますので、立ち寄って納めて下さい。

ご協力をお願いします。

また、口座振込みをなさる場合は下記口座に振り込んで下さい。

振込先

山梨中央銀行 忍野支店 普通 121086

宗教法人 東園寺

## 平成22年 第一回親子座禅体験

7月25日、親子座禅体験が行われました。初めての試みなので、参加者のことが気がかりでしたが、9組、18名の方が参加されました。午後5時30分の開始の頃は、ひぐらしの声が聞こえていました。6時少し前に、稲光とゴロゴロと雷鳴が響き、突然雨が降って来ました。鳥のさえずり、ひぐらしの声、雨音に雷鳴、夏ならではの音を一時間の間に聞くことができました。皆さん、それぞれに思いをめぐらしていたようです。



体験後アンケートにご協力をしていただきました。感想については、「想像していたよりも、大変でした。」が多く、しかし、「また参加したいです。」と、全員が書いて下さっていました。

夏休み親子座禅体験は、初の試みでしたが、座禅体験を通して、少しでも心を落ち着ける時間や、自分を見つめる時間を持つていただく機会を作ることが出来ればと考えています。

これからも、この企画を続けていきます。親子だけでなく、お一人または友達同士でも結構です。多くの方々参加をお待ちしております。

## シリーズ東円寺の古文書 その一

元八幡再建諸掛銘額 天保14年閏9月

忍草村 東圓寺  
且方總代 善右衛門  
市川大門村 友右衛門



表紙



後半にある寄附者一覧

この古文書は、天保14年(1843年)に書かれています。今の忍野八幡の前身である、元八幡霊場の再興事業の時の收支決算書です。これには元八幡を造った時の費用以外に、工事人足の人員と、工事費用の寄附者一覧も書かれています。工事には、およそ百八十両という大金が掛かり、工事人足は、二千五百余人の多さに亘っています。

最後の方には、23人の寄附者名簿が付されています。費用の半分は友右衛門さんが拠出していますが、残りの半分の費用に対して、友右衛門さん以外の寄附者のほとんどは、決して富裕とは思われないような、身延の山間の小さな村の方々です。それらの村の多くは今では、限界集落と言われているような地区です。

元八幡は正式には「富士山根元八幡」と言います。富士講の教義は八幡信仰が基本です。富士山を中心として、内八幡(富士五湖が含まれている富士山の廻りの八幡)・外八幡(琵琶湖・浜名湖・中禅寺湖・霞ヶ浦など、富士山から遠く離れている八幡)と言った根が池が配されています。それに対して、友右衛門さんは「富士山の一番根元にある根が池」という意味で「富士山根元八幡」と名付けたと思われます。

春彼岸号にも書きましたが、忍野八幡は単なる自然遺産ではありません。宗教遺産・文化遺産です。元八幡霊場の再興は、飢饉から村人を救うための宗教を利用した村興し事業であることが、この古文書の発見によって判りました。このことは、友右衛門さんから教えて四代目の子孫にあたる、大宮利彦先生の著書「富士と四尾連湖」の中にも書かれています。先生は富士山学会の会員で、日本工業大学の講師もなさっておられる方です。

## ～平成22年 お盆号 寺庭のつぶやき～

檀信徒の皆様には、平素より東円寺に対しまして暖かなご支援、誠にありがとうございます。今回は、毎月送られてくる叢山時報の中に、小林隆彰和尚さんが書かれた「比叡山と牛さん」という題の、口輪度についての文章を紹介させていただきます。

比叡山の根本中堂から大講堂の昇り口に石の牛さんが横たわっているそうです。今から、140年あまりの昔、江戸幕府の終末で国中が財政難に見舞われた時がありました。比叡山もこの影響を受けて、根本中堂の不滅の法灯の灯明用の油を集めることに苦心していました。この話を聞いた、檀信徒の夢田盛太さんが、毎月一斗の種油を背負って比叡山に登り、寄進されたそうです。そのお陰で、根本中堂の不滅の法灯は消えずに今日を迎えられたそうです。

夢田さんは、「福田海」という信仰団体の海主で、この「福田海」は牛の鼻輪を供養する団体でした。つい最近までは、農耕には牛の力が絶対に必要でした。牛さんの恩に報いる信仰団体のお陰に、不滅の法灯は消えることはありませんでした。その恩を忘れまいと、根本中堂近くの参道に牛の像が置かれたそうです。

『時代が変化し、今や牛は人間の常食物となってしまいました。かつては、お米を作るための人間に奉公してくれた生き物です。生命とは、人間だけのものと勘違いする私たちに、鉄槌が加えられているように思います。』と文章が締めくくられていました。

様々な人の真実が、お寺を守ってくださっています。今後とも、東円寺をよろしく願っています。